

お米の美味しさの決め手は田んぼに砂糖入りか？

生態農業こそ真の活路

「他の農家からよく聞かれる。お宅のお米はどうしてこんなに美味しいの。いったいどんな化学肥料を使っているの。科学肥料なんか一切使っていないよ。と私は言う。しかし、誰も信じてくれない。しかたないから、実はたんぼに砂糖を入れたのをごまかした……」。昨日、日本の有機農業専門家の佐藤喜作氏がこうして自分が生態農業に取り組んだ時のエピソードを語ってくれた。今回の「中日生態循環型農業技術普及活動」の間、両国の専門家は生態農業でなければ、農業発展の将来性はないと口をそろえて言った。

佐藤氏は取材にこう答えた。60年代、日本では近代的農業が急速な発展の最中だった。その時、化学肥料と農薬が大量に使用された。特に農薬の乱用は農家自身だけでなく、残留農薬を含んだ農産物を食べた消費者にも健康被害をもたらした。このような背景で、近代的機械農業から伝統的有機農業への回帰が注目を集めはじめた。「有機農業と言っても、目的が金儲けか環境、あるいは健康かによって、まったく違うものになるのだ。日本でも有機農産物の偽装問題が発覚したことがある。一番安全な農産物は農家が自分の口に入れるものなのだ。」という。

また、有原文二博士は、有機物は土壌中のイオン保持の役割が大きいと同時に、土壌水分保持力の増強にも役立つため、作物の抵抗力向上に有利であると話していた。

中国側専門家の趙亜夫氏は、記者にこう話した。スイカを例にしていえば、多くの消費者は今のものは昔ほど美味しくないという。その原因はやはり科学肥料の大量使用による食感の低下なのだ。また、現在の江蘇省南部と日本を比べると、多くの地域では水稻のムー当りの収量は日本より25%ぐらい高い。しかし、化学肥料の使用量は日本の4倍、農薬も倍ぐらい高い。収益を考えると、これはまったく採算が合わないのだ。しかも、残留農薬や地力低下、それに農産物品質の低下等、一連の問題をもたらしている。そのため、生態農業以外には道はないということだ。

日本人専門家が酷暑の中技術伝授

江心洲の百名近くの農民が学ぶ

取材 沈湘偉 干光磊

本紙の取材によると、昨日 37 度の酷暑にもかかわらず、「日中生態循環型農業新技術普及会」参加中の日本人専門家はわざわざ江心洲へ出向き、田んぼの中で百名近くの農民に「青空授業」を行った。参加者は大変勉強になったという。

昨日午前 9 時、松沼憲治氏、斎藤春夫氏らの日本人有機生態農業専門家は江心洲にやってきて、農民らの栽培過程であった具体的な問題について現場での質疑応答を行った。取材によると、松沼憲治先生は今年 76 歳で、昨年 5 月に有機肥料の利用を普及するため、江心洲を訪れている。そのため、今回顔見知りの農民たちと再会して、とても親しみを覚えるという。多くの農民らは、教わった有機肥料はすでに使っていて、大変役立っていると話している。一平村の女性陸玲さんは、鶏糞等の有機肥料を使ったおかげで、うちのキュウリは昔よりずっと美味しくなったと記者に告げた。半信半疑で食べてみたら、本当にしゃきしゃきで美味しかった。

お昼ごろ、松沼憲治氏らは灼熱の太陽の下、農家倪建明氏（58 歳）の畑へキュウリの成長状況を見に行った。黄色くなっていたキュウリの葉っぱを目の前にして、倪さんはとても心配そうな様子。松沼さんは一通り状況を聞いた後に、この様にアドバイスをした。有機肥料の使用量をさらに増やして、複合肥料は減らし、或いはやめてもいいという。倪さんのキュウリがかかっているのはウドンコウ病で、昔は農薬で防除していたが、根本的に駆除できないばかりか、作物が薬物耐性まで生じてしまうとのこと。その他、土壌亀裂が発生しているのに対して、作物の根茎断裂の原因になるので、正しい措置は土壌の表面に稲藁を被覆したうえ、よく水分を補充することと松沼氏は倪さんに指導した。

作物病虫害の根本的な原因はやはり土壌だ。良い作物を作るためには、良い土作りをしなくてはならない。それ以外、栽培中にあった連作障害も実は地力不足が原因だ。土作りをしっかりしていれば、同じ作物を毎年同じ土地に栽培してもまったく問題がないと、松沼氏は農民らに向かって丁寧に教えた。

松沼氏は自分の長年の実践と改良を重ねた有機堆肥づくりの方法を農民らに説明した。それを聞いた王さんは記者にこう話した。この方法はとても簡単で、コストもほとんどかからないから、普通の農家でも自分で作れる。そして、地力が大幅に上がるので、いい収益になるし、味も文句なし！

午後 3 時、「青空授業」もいよいよ終盤に入った時には、専門家たちはすでに全身が汗まみれになっていた。市の関係者によると、今後、専門家らが説明した技術をパンフレットに印刷し、各農家に配る予定という。

(京江晩報 2008 年 7 月 6 日 取材 沈湘偉 干光磊)